



名古屋市議員

久田くにひろ Kunihiro Hisada

昭和58年12月31日生まれ。

経歴

- ・瑞穂区春山町生まれ
- ・陽明小・汐路中・天白高校卒業
- ・青山学院大学経済学部卒業
- ・名古屋大学大学院経済学研究科修了

活動

- ・子ども食堂
- ・フードバンク活動
- ・生活困窮者支援
- ・公共経済政策
- ・SDGs提言活動
- ・防災士
- ・プロギング
- ・剣道

趣味

- ・スイーツ巡り、料理、山登り

職歴

- ・NHK「中学生日記」出演
- ・不二家、京セラ(KDJ)で法人営業に従事
- ・2019年、名古屋市議員選挙で6,021票賜り初当選
- ・これまでに、都市消防・財政福祉・土木交通委員会に所属
- ・令和4年度は経済水道委員会に所属

政談演説会を開催します!

4月5日(水)18:00~

場所「瑞穂区役所講堂」

弁士

衆議院議員 牧義夫
愛知県議会議員 高木ひろし
名古屋市議員 久田くにひろ



Hisada Voice 2023

[久田くにひろ] 特集号

Vol.18

2023年3月号

頑張るあなたを
独りにしない



名古屋市議員

久田くにひろ



LINE



Facebook



Twitter



instagram



youtube



公式サイト

立憲民主党瑞穂区支部

〒467-0806 名古屋市瑞穂区瑞穂通3-1

※瑞穂区役所向かいにある旧瑞穂三丁目市場。

TEL : 052-846-3460

FAX : 052-846-3461

Mail : hisada.kunihiro92@gmail.com



立憲民主党 立憲民主編集部
〒100-0014 東京都千代田区永田町1-1-14 三宅ビル7F
Tel.03-3595-9988 Fax.03-3595-9088

久田くにひろ 想い

Thoughts of
Kunihiro Hisada

頑張るあなたを独りにしない



久田くにひろ プロフィール

昭和58年12月31日生まれ。瑞穂区生まれ。陽明小・汐路中・天白高を経て青山学院大学経済学部卒業、名古屋大学大学院経済学研究科修了。不二家・京セラ(KDJ)で法人営業に従事。

ワンオペ育児/介護、家事育児と仕事の両立、孤独な保活、ハラスメント、DV、不安定な雇用、ヤングケアラー、ダブルケア、老老介護、8050問題など何年経っても変わらない社会の状況を和らげて、頑張るあなたを独りにしないために、突き進んできました。さらに、被災者、障がいと共に生きる方、難病や病気

と向き合う方、生活に困窮している方、LGBTQ。政治がこれまで十分に目を向けていなかったところに、光を当てていく。みんなの生きづらさを少しでも解消し、誰も置き去りにしない社会を目指したい。その想いは、これからも変わらず持ち続け、名古屋市政に向き合っていきます。



子育て支援が大切! 現場の声だけでなく 経済にも良いことを研究

大学院で、子育て支援策の中で、特に保育などの現物サービスを充実させると、経済成長につながることを実証研究しました。結果は、現物サービスは経済成長に正の影響を与えるということでした。これからは、子どもは社会で育てるとの市政方針を打ち出し、子育て支援をより充実させていく必要があります。

コロナ禍では ひとりひとりに 寄り添う支援を行う

ワクチン接種予約で電話が繋がらないとの事態が発生した時には、100件以上の予約のお手伝いをしました。また、飲食店への営業時間短縮要請にかかる支援金では15回の申請書が出るたびに、毎回100枚以上、直接お届けしました。制度を活かす・伝えることも大切だと考え、今でも私はひとりひとりに寄り添った支援を行っています。



4年間の
振り返り

ひとりひとりの声から政策につなげました

01

学校生活介助アシスタント 事業費の大幅増額

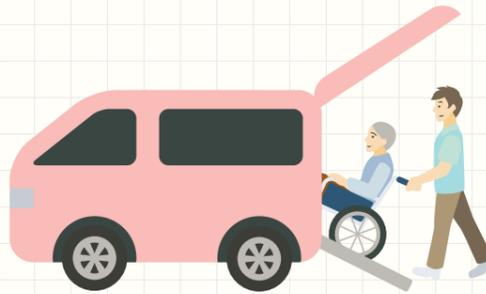
「学校から子どもの授業に付き添うように言われたが、母子家庭であり仕事をしなくてはならず、困っている。」との声を受けて、障がいのある子どもが安心して学校生活を送れるようにするため、事業予算を1.5倍に上げ、介助時間数の拡大につなげました。



02

ファミリーシップ 制度の導入

「私たちの生き方を承認してほしい。」LGBTの方々の生きづらさを少しでも解消するため、ファミリーシップ制度の導入につなげました。昨年12月から開始。



06

重度障害者タクシー 料金助成制度の拡充

「年間96枚発行されるが、1乗車1枚しか使えないのは当事者にとって経済負担が大きい。」との声を受けて、重度障がい者の外出の機会が得られるよう、複数枚利用できる制度へと変えることになりました。令和6年より開始。



08

生活困窮者支援 窓口のスタッフ増員

住居確保給付金にかかる相談・申請が急増して相談者が困っているとの声を受けて、仕事・暮らし自立サポートセンターのスタッフ増員を行うことになりました。



07

子育て支援にかかる 応援金の創設

名古屋市が子育て家庭を応援して行くと言うメッセージがしっかりと子育て家庭に伝わるよう名古屋独自のインパクトのある子育て支援策を打ち出すことが重要であると考え、仲間と共に子育て支援にかかる応援金の創設の実現につなげました。



04 ゾーン30プラスの実施

「生活道路なのに、スピードを出す車が多く、危険。安心して歩ける生活道路にしてほしい。」子育て中のママさんからの声を受けて、ETC2.0から得られるデータを活用して、潜在的な危険箇所を特定し、速度抑制や通過交通進入などを行う事業を汐路学区で提案。結果、車両速度制限を30キロとし物理的デバイスを併用するゾーン30プラスを瑞穂区で名古屋市初導入することができました。



SAFETY DRIVE

05

化学物質過敏症の 相談窓口の設置

平成21年に病名登録されたが、社会的認知は進んでいないのが現状。市民の理解を深めるために、普及啓発を行うことや当事者が直接健康相談できる窓口を設置してほしいとの声があり、実現につなげました。

09 居宅訪問型 保育事業の導入

障害のある子どもたちで、集団保育が困難な場合の受け皿として、専門の保育士が自宅を訪問し、一対一を基本とする保育事業があり、また導入を希望する当事者の声を伺っているため、早期の導入を求め、来年度より導入する予定となりました。



10

コロナ自宅療養者向け 配食サービスの 対象者拡大

「濃厚接触者は陽性者と同様に外出できず、食事の確保が難しい」との声を受けて、配食サービスの対象者を陽性者と同居する濃厚接触者にまで拡大することができました。

瑞穂区最年少議員!! 行動力を活かす!!



積極的に
議会発言



子ども食堂
ボランティア



4年をかけて
1,000回達成
しました

1092回の街頭活動の中で、
ひとりひとりの声を
受け止めています

市民の皆様の声が私の原動力です。馴れ合いやしがらみの多い名古屋市政を市民の声を大切にする市政へと変えていきたい。私は街頭活動を通じていただいた、市民ひとりひとりの声を力にして、市政と向き合っています。

名古屋市議会 屈指の発言数で、 議会で指摘や提案を続ける

本会議個人質問10回(27テーマ)、委員会質疑132テーマについて発言してきました。どんな議案であっても指摘・提案することが議員としての職責だと考えているからです。今期最後の名古屋市議会個人質問などにも挑戦していきます。



当事者の声を
大切にしたい



市民の想いを
議会に届けます

座談会などを通じて、
市民の声をとことん伺い、
議会に市民の声を
届けています

42回の座談会、5つのSNSを活用して多くのご意見をいただきました。例えば、学校での学用品の経済的負担が大きいとの保護者からの声を受けて、令和4年本会議個人質問で取り上げ、経済的負担を減らす取り組みを進めることができました。



子育て世代の
声を聞く

応援者の声

voice of supporters



私たちが直接訴える場を
作っていただきました。

人工呼吸ユーザーである私が、公立高校で日常生活に不安なく学習活動に参加できるよう、久田さんには教育委員会との話し合いの場を作ってもらいました。これからもインクルーシブ教育が進むよう、頑張ってください。

Hさん親子



若さからくる柔軟性と
行動力が持ち味。

久田さんは、時代の変化に対応する力と政治信念を貫き、突き進む行動力を持ち合わせています。市民に寄り添う名古屋市政に変えてくれると信じています。全力で応援します。

杉浦医院院長 森亮太 医師